

「自己点検・自己評価」評価表(最終)

令和3年度

信州上田医療センター附属看護学校

評価年月日： 令和4年3月9日

## 1. 令和3年度 学校目標

### 1. 質の高い教育の維持・向上

- 1) 看護師国家試験合格率 100%
- 2) 3年間の継続した学習支援対策（特に成績低迷者への支援強化）
- 3) 基礎看護技術の教育内容の検討
- 4) 授業評価結果の活用
- 5) 学校カリキュラム評価年2回の実施と結果の活用

### 2. 母体病院及び機構病院への就職者の確保

- 1) 母体病院への就職率 60%、機構病院への就職率 90%
- 2) 機構病院の PR 活動の実施
- 3) 母体病院の実習指導体制の見直し
- 4) 実習施設との連携強化をし、実習指導の充実を図る
- 5) 卒業生への支援

### 3. 職務満足度の向上

- 1) 看護教員の教育力・マネジメント力の向上
- 2) 研究活動の推進
- 3) 年次休暇の計画的な取得
- 4) 時間外勤務の削減等、効率的な勤務体制の直し

### 4. 閉校準備

- 1) 閉校準備委員会（記念誌、式典等）
- 2) 学籍簿の整理
- 3) 学校物品の整理

#### <重点課題>

1. 看護師国家試験 100%合格
  - 1) e-ラーニング等を活用し、個々の学習状況に合わせた学習支援の強化
  - 2) 講義の知識を実習で活用し、知識と技術を定着できる教授方法の検討
2. 職務満足度の向上
  - 1) 看護教員の教育力・マネジメント向上のための研修参加
  - 2) 計画的な年休取得と適正な勤務時間管理

## I. 教育理念・目標

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特徴が明確になっているか）	4	・定められている
2. 学校における職業教育の特色は何か（定められている）	4	・定められている
3. 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国立病院機構本部より、中長期的な視点に立った学校評価の視点が示され、効率的効果的な学校運営方針・活動内容について、計画的に活動をしている。</li> <li>・学校の老朽化、長野県内においては、4年生大学が2校新設され、入学生の確保が困難になっており、国立病院機構本部、県内機構病院との協議の上、令和3年度の入学生を最後に募集停止とした。今後も母体病院の実習の受け入れ、現任教育等看護師育成には積極的に協力していく。また閉校まで地域医療に貢献できる看護師の育成輩出に努める。</li> </ul>
4. 学校の理念・目的・人材育成像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の学習指針となるよう、具体的で実現可能なものとして文章化し、学生便覧に記述している。</li> <li>・学生には入学時オリエンテーション、実習開始時のオリエンテーション、就職や進路指導に合わせて必要な時期に説明を行っている。</li> <li>・学生の様子を必要時、HPや学生を通して保護者には伝えている。コロナ禍の影響で式典の参加や保護者会の開催を中止しているが、文書で説明等行っている。</li> </ul>
5. 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護専門職に求められる専門性、自律性、論理性、判断力、実践力については学生便覧に記述している。看護師に求められる実践力を身に付けるための教育となっている。</li> </ul>

### ①課題

式典の縮小や学校内部だけの学校行事等により、保護者に対して、学生の学校生活の様子を伝える機会が減っている。

### ②今後の改善対策

みどりが丘だよりや学校新聞など、学校生活が少しでも見えるものを送付する。

学校生活について、ホームページの情報公開の充実を図っていく。または学校行事などは録画配信なども検討する。

保護者会は開催できない分、必要に応じて個別三者面接などで対応していく。

### ③特記事項

なし

## II 学校運営

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	・設置者の指針に沿った組織体制を取り、毎年設置者および病院運営方針に則って学校の運営方針を定めている。
2. 事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4	・教育理念、教育目標に沿って年間計画、教育計画、教科外活動を立案し、学生便覧に載せ学生・職員に明確にしている。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実習方法や学校行事など変更もあるが、その都度調整を図り学生への周知を行っている。
3. 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4	・学校運営会議規程、教員会議規程などがあり、それらの会議において学校運営に関する職員の意見交換および意思決定を行っている。
4. 人事・給与に関する制度は整備されているか	4	・国立病院機構の規定に基づき運営している。半年ごとの業績評価を行い、賞与に反映している。人事については毎年職員カードの提出と面接を実施し意向調査を行っている。
5. 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4	・学校運営会議、教員会議の場で話し合いが行われて承認を得て進めている。
6. 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護の観点から、学生の成績管理は独立したネットワークの成績管理システムの中で管理している。職員用 PC はセキュリティが強化された国立病院機構の情報ネットワーク（HOSP ネット）を用いている。</li> <li>・学生の実習記録の取扱いについては PC を使用せず手書きとし、コピーで複製しない、ファイルからは外さないなど取り扱いの規定を設け周知している。</li> <li>・学生のインシデント・アクシデントの発生時の対応については体制が整備されている。看護部との指導者会議、HR、教員会議等でも情報共有は図れている。</li> <li>・実習に関連した情報管理や安全管理に対する学生の教育について実習担当が系統立てて実施している。</li> </ul>
7. 教育活動等に関する情報公開が適正にされているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページにて学校評価、財務諸表について公開している。</li> <li>国家試験の合格率、就職情報、学校行事などタイムリーに情報発信している。また HP には学生の声を掲載する等学校生活がわかるよ</li> </ul>

		うにしている。その他に母体病院の広報誌に5回/年学校の行事など掲載している。
8. 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PCの共有ファイル使用により、業務の効率化を図っている。</li> <li>・学生への連絡も連絡網システム（オクレンジャー）の導入により、速やかな周知をすることができている。</li> <li>・時間外勤務の削減に向け、働き方改革として朝ミーティングにて情報共有、早出勤者による退勤前の勤務調整などを実施し、業務の効率化に取り組んでいる。勤務時間管理の原則を理解し自らタイムマネジメントできるよう意識改革を図っている。</li> <li>・外部施設との会議、研究会についてはTeamsやCiscoWebexなどを利用しWEB会議を実施。移動時間の削減、経費の削減だけでなく業務に集中できるよう効率化を図っている。</li> <li>・またコロナ禍で登校ができない学生への学習保証としてもCiscoWebexでの授業配信を行っている。</li> </ul>

① 課題

・情報システム化は図れたが、業務の効率的をさらにすすめる。

② 今後の改善対策

教員の業務分担にICT担当を令和4年度から設け、教員個々がシステムの可能な機能を習得できるようにする。また業務負荷のないよう、SE等の協力を得てICTを進める。

③ 特記事項

### III 教育活動

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	学生便覧・教育課程に明示されている。次年度はカリキュラム改正であるが、当校は募集停止であり導入はない。しかし、関信地区の国立病院機構附属看護学校における共通カリキュラム編成に取り組み、他校の教員と専門看護学領域の教育内容、教育課程について会議を開催し、理念に沿った教育課程編成に取り組んでいる。
2. 教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4	・指定規則を厳守し、教育理念・卒業生像を踏まえた教育目標到達のための学習時間が確保されている。新型コロナウイルス感染拡大の影響もあったが、学修すべき時間については確保できカリキュラムは順調に進めている。
3. 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	・指定規則に則り、学修すべきカリキュラムについては体系的に編成されている。

4. キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響等により機構附属看護学校間の研究授業の参観は減少し、外部への参加は1件であった。自校内において全教員が研究授業の計画を進め実践した。</li> <li>基礎看護技術を教授する場合、臨床での実践方法に近い形を意識して、教員間でも検討・共通理解を図っている。</li> </ul>
5. 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護教育に携わる講師、同窓生などを含めた学校評価委員により年1回外部評価を行い、カリキュラムの作成見直しが行われている。結果については学校ホームページで公開している。</li> <li>・実習関連施設では実習終了後ごと振り返りを行い実習内容、方法の見直しを行っている。</li> <li>・関信支部で検討された共通カリキュラムについて、他校の各領域の教員と意見交換することで、共通認識できている。</li> </ul>
6. 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の機構病院、訪問看護ステーション、地域包括、保育園、高齢者福祉施設等、母体病院以外での実習施設がある。実習内容の説明、指導方法について臨地の指導者と密に連携を取り調整しながら実習を進めている。</li> <li>・実習内容については各領域担当教員が毎年確認し修正を行っている。</li> <li>実践的な職業訓練ができるよう体系的に位置づけられている。</li> <li>・学内での看護技術演習については技術チェックで確実な手技ができるように合格点に届くまで技術確認をしている。</li> </ul>
7. 授業評価の実施・評価体制はあるか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科目ごと、講師ごとに終講時に学生からの授業評価を実施している。しかし、授業者側の評価はしていない。</li> <li>年2回の全学年に対し学校満足度評価(一部カリキュラム含まれる)を実施している。</li> </ul>
8. 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校関係評価要項を基に、外部評価者を入れ実施している。今年度は高崎看護学校と学校間評価を書面にて実施した。</li> </ul>
9. 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学則・細則に明記され、成績評価・単位認定、卒業判定の基準は明確となっている。学校運営会議にて判定している。</li> </ul>
10. 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育課程、シラバス内に1年次から3年次までで学科進度が示されており、学修の順序性が考慮され、根拠が記述され体系的な位置づけが記述されている。</li> <li>・国家試験対策については、1年次から計画的にカリキュラムの中に組み込んで学習支援を行っている。また、学年ごとに学習支援の方法の検討を行い、教員会議で共有化している。特に3年次成績低迷者(要学習支援者)へは個別面談、チューター制の取り組み、業者ガイダンスなど実施した。</li> </ul>
11. 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は教員養成講習会を受講、または大学院で教育に関する単位を修得し、教員として基本的な資質を身につけている。また看護基礎教育の中で必要とされる学習内容を教授できるよう、自主的に研修に参加し、自己研鑽をしている。教員としての</li> </ul>

		<p>質の向上ができるよう、業務調整し自己研鑽できるような環境を整えている。研修、学会などに参加し、研究授業も学内で年1回は実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・担当する科目の看護の実務経験のない教員もいる。専門領域を担当する教員の確保は難しい状況ではあるが、教員個々が実習施設との連携や研修に参加し専門領域の知識を深める努力をしている。</li> </ul>
12. 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・臨床から教員として適任者を教員養成講習会に推薦してもらうよう働きかけを行っている。また教員インターンシップの受講者を2名受け入れ教員へのやりがいなど伝え教員への道を推薦している。</li> <li>・講義においては、各専門領域の講師を依頼している。臨床経験のある医師、看護師長、副看護師長が講義を担当している。</li> </ul>
13. 関係分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究助成金制度により、各教員は自己研鑽のために個々で研修や学会に参加できる体制は整えられている。</li> <li>今年度は、母体病院への管理実務研修を2名の教員がのべ10日間実施した。</li> <li>その他に、学生の夏季休暇中、教員8名が看護実践能力の向上のためのべ19日間臨床看護実践研修を実施した。</li> <li>・その他、オンライン研修など各領域の看護教育力向上のための研修を受講している。</li> <li>コロナ禍の影響で県をまたいで移動等が制限されているが教員個々が領域別の学会、研修に参加している。</li> </ul>
14. 職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHO看護教員能力開発プログラム(TNAD)に則ってキャリア開発を行っている。その他、新任期の看護教員は関信G主催の新人教員研修、長野県主催の新任研修に2名参加した。</li> <li>看護管理研修Iについても推薦したが、選考から漏れたため、次年度に再挑戦する予定。</li> <li>また幹部看護教員研修の受講を勧めるなど教員個々の能力開発できる体制にしている。</li> <li>・他校の研究授業の参加は、コロナ禍の影響で制限されているが、状況を見て参加している。</li> <li>学校内でお互いの授業を見学・意見交換を行う機会を設けるよう計画している。</li> <li>・管理実務研修、臨床看護実践研修については上記13を参照</li> </ul>
15. 教員の研究活動を保障(時間的・財政的・環境的)しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員は年6回研究日を設けられおり、研究に専念できるようになっている。</li> <li>しかし、6回だけの研究日では不足するため、必要時は年休取得。教員が研究日に専念できるよう、業務に支障のないように調整が行われている。</li> <li>また教員一人当たり、25万円の研究助成金制度がある。</li> </ul>
16. 教員の研究活動を助言・検討する体制を整えているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究活動を助言・検討するためのアドバイザーを依頼できる研究助成金の体制は整えられ、アドバイザーの確保ができています。外部アドバイザーのない研究については修士課程修了の教育主事による指導も行っている。</li> </ul>

		今年は学会への発表を3題おこなった。その他の研究については令和4年度に発表をする予定である。
--	--	--

① 課題

- ・閉校が決定しているため、最終学年(4 6 回生)の再履修科目が発生した場合の学習の補償を整備する必要がある。閉校までに留年者を残さず全員が卒業できるようにする。

② 今後の改善対策

- ・教員の研究についてプロトコルを作成し、年度内で研究が終了できるように取り組む
- ・最終学年(4 6 回生)の学習支援

③ 特記事項

## IV 学修成果

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 就職率の向上が図られているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R3 年度3 年生 29 名は 100%就職内定した。採用枠の減少にて第 1 志望の就職先ではない学生もいたが、第 2 志望等へ進路指導を行い全員の就職内定できた。県内就職率は 89.6%</li> <li>・就職率向上に対して、1 年次より定期的に進路（進学・就職）調査及び面接を行い進路指導している。1 年次 7 月に例年県内機構病院へバス見学会を実施していたが、コロナ禍であり、中止しオンライン説明会に切り替えた。また、2 年次後期には母体病院は対面にて、県内機構病院についてはオンラインを活用し就職説明会を実施した。3 月には関信 G 主催の合同就職説明会にもカリキュラムに組み込み参加した。</li> </ul>
2. 資格取得率の向上が図られているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2 年度、R3 年度とも看護師国家試験合格率は 100%である。（新卒）</li> <li>・国家試験対策は各学年とも学生の状況を踏まえ、各クラスに合わせた支援を実施している。</li> <li>・教員会議で各学年の成果の報告・学習支援の方法については全教員で意見交換をしている。また、学生が主体的に学習できる方法を検討している。3 年次は国家試験模擬試験を適時実施し、全国区の中での現状を把握、成績低迷者に対し個別面接指導した。</li> </ul>
3. 退学率の低減が図られているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和 3 年は 1 年生 2 名、2 年生 1 名、3 年生 2 名退学している。（R2 年度 3.6% R3 年度 4.7%）</li> <li>・健康上の理由で休学をしている学生 1 名（2 年生）、基礎看護学実習不合格のため 3 学年</li> </ul>



		<p>に進級できない学生1名(2年生)、進路の迷いで一旦学業から離れ進路を再検討する学生1名(2年生)がいる。いずれも今後の学業継続については本人や保護者と相談して進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本人に退学の意思があったとしても、そのまま受け入れるのではなく本人・保護者にとって最善の選択ができるよう支援している。また、進路に悩んだ時、学業継続が困難な時等個別面接、保護者面接等必要な支援は行っている。</li> <li>・欠席が多い学生、成績低迷者や臨地実習が困難な学生が進路変更(退学)するパターンが多いため、積極的に把握・支援する。</li> </ul>
<p>4. 卒業生・在校生の社会的な活躍および評価を把握しているか</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機構内での卒業生の状況は看護部から情報を得ている。「把握」については方法など組織化はされていない。</li> <li>・卒業生の里帰り企画についてはコロナ禍のため、学校へ直接来校参集はできていないが、今年度は3年次の担任を中心に、学校からのメッセージカードを送り、いつでも連絡相談に乗る体制があることを伝えた。</li> </ul> <p>また、臨床看護技術演習のOSCEを母体病院に勤務する卒業生の若手看護師に依頼し、学校への里帰りの一助とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・在校生に関しては学校を通して参加するボランティア活動も多いため(機構病院に対してのボランティア活動、学校自治会を通して活動等)それらについては把握している。また、コロナ禍の状況での病院協力の意味も含め病院アルバイト(洗濯物等の荷物の搬送、フィルム整理)を実施し、把握している。</li> </ul>
<p>5. 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか</p>	<p>3</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・進路面接、卒業前にキャリアアップについて話している。年度当初の計画よりはコロナの影響でキャリアアップに対する特別講義は縮小したが、カリキュラムとしては整えている。</li> <li>・臨地実習でも成人看護学実習Ⅲ：緩和ケア認定看護師(緩和ケアの臨床講義)成人看護学実習Ⅱ：皮膚・排泄ケア認定看護師(受け持ち患者のストマケア)老年看護学実習Ⅱ 認知症看護認定看護師(実習指導)感染管理認定看護師等の認定看護師など接する機会がありキャリアアップを考える機会となっている。</li> <li>・NHO看護学校の学生フォーラムでも認定看護師等の活躍する先輩の話聞く機会がありキャリアアップを考える機会となっている。</li> </ul>

		・しかし卒業後のキャリア形成への把握は十分ではない。
--	--	----------------------------

① 課題

- ・国家試験合格率 100%を維持する。
- ・退学者が前年度より増加。3年間で卒業率が低い。

② 今後の改善対策

- ・低学年からの個別フォロー 担任だけでなく各授業科目、実習担当で支援する。
- ・退学者がいる。  
成績低迷者、進路に迷いのある学生を早めに把握する。  
看護師になりたい意思、学習を継続する意志を随時確認する。  
学生が適切な進路選択（休学・退学・進路変更）ができるよう教員間で情報共有し、適切な生活支援、学習支援を行う。
- ・卒業生への支援として、オンライン里帰り会の企画

## V 学生支援

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年担任は、学生個々の進路希望を調査後、個人面接を実施した。定期面接以外にも、学生の希望により面接を実施し学生が進路を自己決定していけるよう支援した。</li> <li>・3年生に対しては、担任が中心となり採用試験願書の指導・小論文対策を全員に対して行った。また、模擬面接では複数教員が立ち合い所作についても指導を行った。新型コロナウイルス感染症対策のためWEB面接や試験日時の変更などについて、学生が対応できるように支援を行った。</li> </ul>
2. 学生相談に関する体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任による定期的な面接計画を立てている。また学生の相談内容に合わせて個別面接を行い相談に応じられるように体制を整えている。必要に応じて学校カウンセリングを受けられるよう調整を図っている。学校カウンセリングは月2回の直接相談のほか、メールでも相談ができる体制を整えている。</li> </ul>
3. 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金に関しては、入学時に加えて随時説明、対応している。奨学金申し込み書類（志望動機）の記載確認指導を行った。また新型コロナウイルスの感染拡大により経済的支援については県や学生支援機構など支援・情報を含めその都度掲示や個別指導、各クラスへのインフォメーションで周知し、適切に対応している。コロナ禍にてアルバイトの収入減の学生に対し、県から臨時的食糧支援</li> </ul>

		<p>があり、学校を通じて希望学生 30 名に提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>母体病院の協力により病院内で感染症対策を行いながら経済的な支援が必要な学生に対して就労支援(アルバイト)を行っている。</li> </ul>
4. 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学則に基づき健康診断を実施している。校医の指示で、再検査や受診の必要のある者については指導し、結果をフォロー・校医へ報告している。</li> <li>新型コロナウイルスワクチンを希望する学生全員に対し、病院と連携し病院職員と同時期に接種した。また、B型肝炎(2年次)・インフルエンザの予防接種、体調不良時の受診調整などについて、母体病院と連携し体制を整え実施した。</li> <li>新型コロナウイルス対策として、学校対応フローチャートを作成して学生に周知し、学生全員に行動歴の記載の徹底、生活指導、寮内で感染が疑われる者が発生した場合には文科省より無償配布された新型コロナウイルス抗原簡易検査キットを使用しスクリーニングを実施している。</li> <li>学生寮に入寮している学生の体調不良時、コロナの濃厚接触者発生時など、寮担当教員と担任が連携し、受診の助言、環境消毒、保護者への対応を行う体制を整え実施した。</li> <li>国家試験受験のための県外移動後、実習開始前など必要に応じ、母体病院の協力を得てコロナ抗原定量検査を病院費用で実施する仕組みを整えた。</li> </ul>
5. 課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>自治会活動である茶道部・スポーツ部などの課外活動は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で活動中止としている。学生が技術や知識を習得するための課外活動では学生が密にならず、感染対策をしながら練習ができるように実習室や学習室・図書室を開放している。</li> </ul>
6. 学生の生活環境の支援は行われているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>学内に教室の他、食堂やロビーなど学生が食事や休息をできるスペースを確保している。また学習室・ゼミ室など学生が自由に活用できる環境を整えている。コロナウイルスの対応で環境消毒ができるよう整えている。現在、空気清浄機を購入準備中である。</li> <li>また校舎の老朽化、閉校に伴いで設備投資はできないが、年度内に学生用ウオシュレットの新設予定である。</li> <li>院外実習時の宿泊施設の環境も、学生の意見を反映し可能な限り調整している。</li> </ul>
7. 保護者と適切に連携しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルスの感染拡大の影響で保護者会等は開催していない。連絡すべき事項は文書を郵送するなどした。学習面・行動面・健康面で気になることがあれば保護者と連絡を取り、必要時面接を実施している。</li> </ul>
8. 卒業生への支援体制はあるか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>里帰り企画を計画していたが新型コロナウイルスの感染拡大の影響で従来の来校しての実施はせずメッセージカードを郵送し、相談できる体制があ</li> </ul>

		<p>ることなどを合わせて記載した。次年度はオンライン里帰り企画なども検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国立病院機構内に就職した卒業生の状況については看護部より情報を得ることができ必要な支援ができる体制にある。</li> <li>・国家試験不合格者に対しては国家試験受験の意思確認を行い必要な支援を行っている。</li> </ul> <p>学校は卒業後いつでも学校に相談に来られるような環境づくりにより卒業生が来校している状況にある。また、同窓会についての情報は、学校HP上に公表し同窓会とも連携し卒業生を支援している。</p>
9. 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・奨学金制度の活用の案内などを個別の状況によって対応している。クラスでの人間関係について見守り、必要時相談に乗るなどの対応行っている</li> <li>・大学等で修得した単位認定制度があり、個別での学習支援は実施している。</li> </ul>
10. 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年度に閉校のため学生募集は終了しているため高校との連携が必要な場面はない。今年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響で公開講座は中止している。</li> <li>・近隣の看護専門学校とは実習病院の調整や必要に応じて連絡や情報交換をしている。</li> </ul>

① 課題

- ・新型コロナウイルスの感染対策により、課外活動やアルバイトの中止など学生には精神的・経済的な制約が多くなり個々の状況に応じた支援が必要となっている。
- ・保護者会の中止などで保護者からの意見や家庭での様子、学校側からは学生の学校生活状況を共有のする機会の検討

② 今後の改善対策

- ・新型コロナウイルスの感染防止対策を十分しながら、学生に不利益にならない学習環境・生活環境の工夫や改善

③ 特記事項

## VI 教育環境

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定規則の基準は満たしている。講堂・体育館などの施設は学内にないため母体病院や市内の施設を利用している現状がある。その他古くなった物は計画的に修理・メンテナンスを行っている。</li> </ul>
2. 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習施設は老年看護学実習での新たな施設を設け教育体制を整備した。</li> <li>・教員インターンシップは2名の受け入れをした。学生はコロナ禍で病院のインターンシップ</li> </ul>

		<p>ができていない状況にあるが、個々の病院見学会に参加できるよう、施設の看護部と連携をしている。海外研修は行っていない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>母体病院の実習指導者会議の学習会の企画、運営を臨地の指導者と協働で開催し、実習指導体制強化に取り組んだ。</li> </ul>
3. 防災に対する体制は整備されているか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災に関する規定は整備している。防災訓練は隣接している学生寮を含め年2回実施し設備点検も行っている。災害時の対策として各自が最低限の備蓄を行うよう指導し、訓練時に確認している。緊急時の連絡網(オクレンジャー)を利用している。</li> <li>病院の災害訓練についてコロナ禍のため、縮小した机上訓練に教育主事が学校代表として参加した。</li> </ul>

① 課題

- ・災害時に必要な備蓄、帰宅困難が発生した場合の対応の検討はしたが、訓練は実施していない。

② 今後の改善対策

- ・登下校時の交通機関障害時の訓練の検討。
- ・母体病院と連携した災害訓練(災害時の備蓄等)

③ 特記事項

## VII 学生の受け入れ募集

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 学生募集活動は、適正に行われているか	NA	R3 年度の入学生をもって閉校となるため、新たな募集活動は行っていない。
2. 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	NA	上記の理由により今年度実施していない。
3. 学納金は妥当なものとなっているか	NA	上記の理由により該当なし。

## VIII 財務

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>閉校に向けて今年度は入学生の募集停止もあり、検定料などの収入もないため学校としてのより一層の経営状況は厳しい。長野県の運営交付金については予定通り要件を満たし受給できる見込みである。</li> </ul>

2. 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	・物品・図書等購入計画を立て、運営会議で承認を得て運営を行っている。
3. 財政について会計監査が適正に行われているか	4	・財務監査については年1回国立病院機構関東信越グループが会計監査に入っており、適切に行われている。また月次決算について報告を受けている
4. 財務情報公開の体制整備はできているか	4	・ホームページにて情報公開を行っている。

① 課題

- ・学校収支状況について赤字状態が継続している。
- ・閉校が決定したため、年々学生数は減少する。したがって県からの補助金も減少するため、経費の削減は必須である。

② 今後の改善対策

- ・長野県補助金獲得に向けた県内病院への就職実績を積み重ねていく
- ・学校環境整備については不備な部分については検討を行い、必要なものは経営状況を確認しながら修理・更新を行っていく。学生へも節約の意識や物品の管理の方法等ものを大切にす意識をつける努力を続ける。
- ・日頃から物品を丁寧に使用する、点検修理を行っていく。
- ・節電対策

③ 特記事項

IX 法令等の遵守

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 法令・専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指定規則を遵守し、構成されている。教育課程については教員会議で検討したのち、学校教育課程編成委員会(外部委員)での検討を行っている。</li> <li>・指定規則に定められた教材・教具については毎年確認している。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う学習方法や環境については、長野県を通して周知される文部科学省、厚生労働省より示される内容を遵守し実施している。</li> <li>・今後も適宜示される取り組みを遵守した運営を行っていく。</li> </ul>
2. 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員に対しては国立病院機構の個人情報の管理規定、倫理規定に基づき対策を行っている。</li> <li>・学生に対しては学生便覧、実習要綱に明記されその都度指導を行っている。入学生には個人情報に係る承諾書を取り学校保管している。学生の個人情報に関して学年用・カリキュラム・実</li> </ul>

		習用のHDを使用、鍵のかかるところに保管するなど対策をとっている
3. 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4	・中間評価を9月末、最終評価を年度末に実施し、課題を明確にしている。改善できることから取り組んでいる。
4. 自己評価結果を公開しているか	4	・ホームページに公開している。
5. 学生や保護者が自由に意見を言える体制が整備されているか	3	・例年の入学式、戴帽式にて保護者会を実施しているが新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施できていない。成績低迷者、欠席の続く学生に対しては保護者へ連絡し面談を行うなど対応を行っている。また電話での相談や連絡を取っている。学生に対しては担当が定期的に個別面談や相談を行っている。 ・学生にはカリキュラム満足調査を9月末、3月に実施。学生の声を学校運営に反映し、年度末には評価を実施している。

① 課題

- ・閉校を含めた学校運営にかかる指定・認定の更新、報告時期の確認、確実な実施を行う

② 今後の改善対策

- ・閉校に係る業務については引継ぎ、共有化のためプロジェクトチームを作り運営していく

③ 特記事項

## X 社会貢献・地域貢献

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染拡大により小学生を対象とした公開講座が中止となり、学校施設を活用した地域貢献の実施ができない。教材等地域から依頼があった場合物品の貸し出しを行っている。(近隣看護専門学校)</li> <li>・閉校に伴い1年次の基礎分野の講義は終了した。市内近隣の看護専門学校が課程変更に伴い講師選定に苦慮しているため、講師の紹介や仲介、情報提供を行い協力した。</li> <li>・新型コロナウイルス感染拡大地域への公的病院看護師派遣について、厚生労働省、国立病院機構からの要請に基づき、母体病院を代表して看護教員を2月中旬より3月末日まで東京都のコロナ施設へ派遣し、地域医療を支える重要な役割を果たし貢献した。</li> </ul>
2. 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内でのボランティア活動、県内機構病院関係のボランティア活動については奨励・支援し、夏季休暇を利用し10名程の学生が参加</li> </ul>

		した。リレーフォーライフジャパンは参加方法がオンラインとなったため学生に参加を促した。
3. 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依頼があった場合には、積極的に実施している。看護教員インターンシップを2件受け入れた。その他関東信越グループ新人看護教員の研修講師を担当した。</li> <li>・成人・高齢者への地域に向けた公開講座などの実施は近年実施がない状況である。次年度は病院と共催し実施していく予定である。</li> </ul>

① 課題

- ・実習施設のボランティア活動は行えたが、近隣の地域におけるボランティア活動・公開講座などの実施ができなかった。

② 今後の改善対策

- ・学生ボランティアは今後も継続して参加を促していく。
- ・地域における看護職への興味を向けられる活動を計画する。

③ 特記事項

- ・閉校に向けて教育資材の活用方法の検討が必要

## XI 国際交流（必要性に応じて）

評価項目	4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切	備考
1. 留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	1	・ 留学生の受け入れに関しては、これまでに需要がなかったこと、国立病院機構が定めている教員配置は指定規則の最低人数であり、留学生に対して1人の教員の確保ができないため、留学生の受け入れは現状できない
2. 留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	NA	同上
3. 留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	NA	同上
4. 学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価をホームページ上で公開はしているが、日本語のみとなっている。</li> <li>・学会発表については国内のみである。</li> </ul>

① 課題

- ・現状の教育環境では留学生の受け入れは困難である

② 今後の改善対策

③ 特記事項